

こばカフェ 2025

実施報告書



令和8年1月

小林市議会 広報広聴委員会

目 次

1. 開催概要	2
(1) 「こばカフェ」の目的	
(2) 開催日、開催場所及び参加者数	
2. 事前アンケートで出された主な意見・アイデア	3
3. 意見交換会で出された主な意見・アイデア	6
4. 意見交換会後の市民意見等の取扱いについて	11
5. 参加者アンケート結果	12

I. 開催概要

(1) 「こばカフェ」の目的

地域や職域の垣根を越えて市民の意見を幅広く聴取し、議会内での議論・政策提言の資源とするため、「広聴機能」に特化したカフェ方式による意見交換を実施するものである。

(2) 開催日、開催場所及び参加者数

今年度は子育て世代を対象にし、小林市議会議場及び委員会室にて意見交換を実施。

開催日	開催場所	参加者数
令和7年10月3日（金）	小林市議会議場及び委員会室	25人
合計		25人

(3) 当日のながれ

1.開会あいさつ・趣旨説明（約5分）

2.議会・議員の役割説明（約10分）

3.議場体験（約10分）

4.議場ツアー（約20分）

5.意見交換（約60分）

6.閉会・写真撮影（約10分）

2. 事前アンケートで出された主な意見・アイデア（委員会別）

・参加者には事前アンケートを実施し、3常任委員会所管の各分野において興味・関心のあることについて意見を出してもらいました。以下、事前アンケートの結果を委員会ごとに分け、それぞれ分野ごとにまとめて記載しています。

総務文教分野

- ・三松小学校体育館について
- ・国スポ障スポ 2027 における小林市内各会場について
- ・学校におけるスポーツ振興保険の必要性
- ・あと 5 年程度でほとんどの小中学校が複式学級になる可能性が高いと聞いています。また、特に中学校に関しては統廃合を前提に整理していく予定ということも聞いています。登下校やそれに伴う移動時間の変化などは、家庭内の生活にいろいろな影響があると思います。社会的な財源も大切ですが、子供を持つ家庭がどのような生活の仕方へ変わっていくのか関心があります。
- ・「日本の公教育のあり方が変わらなければいけない」と言われ始めて久しいですが、なかなかオルタナティブ教育に関する取り組みは一般的になりません。
- ・高等教育以降は、どんどん通信制での単位取得が一般的になっています。「高校、大学がないから、小林市から出なければいけない」とはならない可能性があります。こういった通信制の教育機関のサテライト校や、スクーリングに活用できる施設を準備することで、若者の市外流出を緩和し、市内流入に前定的に働く施策ができるのではないかでしょうか。
- ・子どもの学力向上
- ・スポーツの街 小林市の確立 スポーツ施設を生かし、プロ、実業団などの合宿、キャンプ地として誘致
- ・スポーツ少年団、中学、高校の部活動への補助の拡充
- ・教育現場での補助教諭（教員業務支援員）の増員
- ・部活動
- ・TENAMU や KITTO などの交流スペース、TENOSSE のようなコワーキングスペースなど、市民交流の中核となる居場所作りがとても良い取り組みだと思います。生産年齢層が集まり、コミュニケーションを図る中からこれから先の小林市で何をしたいのかが生まれてくると思います。人口の多い少ないが問題なのではなく、挑戦する場が作り出せないことや挑戦が認められにくかったり、失敗に対して寛容に受け入れられない風土があると面白みのない地域になってしまいます。これらのスペースを小林市の中心部以外（旧野尻町や旧須木村など）にも増やせないでしょうか。
- ・シムシティ課はどうなったのでしょうか？この領域と深く関わると思います。

経済産業分野

- ・雇用創出のためにまず市役所の新卒と中途採用を増やして職員数増員→市内で魅力的な産業や新たな雇用を生みだすことで働く世代の人口流入→住民税等の歳入増みたいな好循環にならないかなあ
- ・地域交通網の維持拡充についてはずっと課題に上がっていると思うのですが、進歩がないと思います。進歩できない原因が、あればその原因へのアプローチやそれに係る期間、市民に求められる行動方針などが明示されると良いと思います。また、イベントを企画する際などは、その行動方針を取り込んだ形にすると動員しやすいかと考えます。
- ・米政策
- ・温泉施設、合宿所、宿泊施設の整備・来訪者の増加
- ・市内企業 マッチングアプリ的な企業情報

市民厚生分野

- ・こども医療費の拡充
- ・子育て支援の基本となるのはこども基本法・こども大綱だと考えますが、今の子どもたち自身がこのことを知ることができているのか非常に疑問です。大人ですら、これらを正しく理解して説明できるのか?場合によっては、子ども自身が自らの意見を正確に表現することが難しい場合もあるため、大人が汲み取るためには、どのような取り組みが必要なのかなど検討していくべきだと思います。こども基本法のベースとなっている子どもの権利条約に日本が批准したのは約30年も前ですが、振り返ってみてこれまでの社会が、これに適用するように大きく変わった印象はありません。改めてこども基本法が施行された今、地域を変える行動を起こさないと、子育て世代や子どもそのものから見捨てられる地域になります。
- ・さまざまな支援に係る基準では、世帯年収を目安とすることがありますが、これでは、子どもの数や病弱な家族、同居高齢者の数など、一般的に働けない生計を同一にする家族が増えるとさまざまな出費が増える一方です。生活保護費支給額でも議論されているよう、現在の物価や生活費基準に見合っていないのではないか。この基準額についても一律の世帯年収判断では、子どもやその他の生計を同一にする家族を持つほど苦しくなります。核家族化を進めすぎた歪みを是正する意義、子を持つことが単なる負担増とならない認識を明確化できないと、子育て環境として都会と比較すれば不利にならざるを得ない地方では、子育て世代の定住回避は避けられないと思います。
- ・少子化対策
- ・緊急時に対応出来る医療体制

その他

- ・市議会議員報酬は現行の3倍ぐらい出せないのか
- ・このような機会を継続してくださって、とてもありがとうございます。「政治」というと堅苦しいですが、「自分たちの地域をつくること」にいろんな年齢、立場の人たちが関わっていく入り口になっていると思います。本当は産まれた時から、市議会の皆さんに見守られているのですが、子どもたちも含めてそれをはっきりと認識できないのは、とても残念なことだと思います。周りの人にも「市議会さんとこんなことがあったよ。良かったよ」と伝えていきたいと思います。

3. 意見交換会で出された主な意見・アイデア（委員会別）

- ・意見交換会では、参加者と議員が3つの委員会室に分かれ、意見やアイデアなどを付せんに書き出すなどして出し合い、活発な意見交換が行われました。以下、参加者から出された課題や意見、アイデアを委員会ごとに分け、それぞれ分野ごとに記載しています。

総務文教委員会

◆教育・学校

●人口減少・学力問題

- ・人口減少 ⇒ 生徒数減少、少人数学級、学校統廃合の議論が進行中
- ・学力低下（例：小林小）アフターコロナの長期自宅生活／ゲーム・スマホ依存／ひきこもり
- ・宿題なし（東方小・栗須小）による学力面の不安
- ・学習環境の充実、補助教諭増員が必要
 - 「教員不足：校長の知人（元教員）呼び出し、教頭が授業対応
- ・進学をめざす生徒は市外（都城・宮崎）へ流出

●不登校支援

- ・不登校の理由が教師との関係に依存する例
- ・「学校には行けないけど給食は食べたい」ニーズ
- ・自宅からのリモート授業の選択肢が必要
- ・不登校生に一次産業・二次産業の体験機会を
- ・オルタナティブ教育の導入
- ・休校・廃校を活用した通信制高校のサテライト校開設提案
 - 「短期滞在がまちの活性化に寄与

●教員・保護者・地域関係

- ・親からのクレーム増加・モンスターペアレンツ化
- ・親の教育力低下／何でも学校任せ
- ・教員を守る仕組み・相談時間の確保が必要
- ・働き方改革と不登校対応の矛盾
- ・教師と保護者の人間関係が希薄化
- ・家庭訪問廃止で家庭状況把握困難
- ・地域コミュニティとの連携不足

●学校施設・備品

- ・和式トイレ → 洋式化未完（小学校多数）
- ・体育館の空調整備（避難所として機能せず）

- ・細野中体育館トイレ雨漏り
- ・三松小体育館老朽化（手すり腐食・床板破損）
- ・東方中体育館～トイレ間に屋根なし
- ・地区体育館（東方など）設備不良
- ・学校備品をPTAが負担している
- ・保険の必要性への疑問

●その他教育事項

- ・女子のダイエットによる食事制限
- ・ネットリテラシー教育が必要
- ・郷土芸能の継承を学校と地域で実施
- ・未就学児の家庭教育格差あり
- ・有能な地域に相互参加（幸ヶ丘など）

◆交通・移動

- ・コミュニティバスの時間・停留所が不便
 - 「幸ヶ丘小へバス利用できず（送迎負担）」
- ・オンデマンド交通利用しにくい
- ・吉都線が遅延・不通多い
- ・国道から離れた地域の道路整備遅れ
- ・徒步通学（3km）の安全確保
- ・高速バス乗り場の北霧島物産センター前設置希望

◆地域コミュニティ

- ・区・組統廃合、消防団の適正化、人材不足
- ・子どもの遊び場不足（屋内施設希望）
- ・三松地区に公園（広場＋トイレ）希望
- ・まち協のあり方見直し・区の負担軽減
- ・子育て世代は忙しいのに「何もしない」と言われる問題
- ・継続性ある市政運営を希望
- ・医療・子育て制度の広報不足

◆消防

- ・消防協力費の問題
- ・消防団員加入減少、人材不足

◆スポーツ

- ・少年団・中学部活動への補助拡大
 - 「外部指導者の報酬 自主財源で活動開始が遅れる」
- ・小林市を「スポーツのまち」に確立希望

- ・2027国スポ・障スポの会場整備への懸念

◆家庭・経済・その他

- ・物価・ガソリン代・保険料上昇、賃金据置
- ・教育費負担が重い
- ・保育料高い、子ども手当増額希望
- ・ふるさと納税に飛びつく「大人の不勉強」問題
- ・「シムシティ課」はどうなったのか

経済産業委員会

■経済・産業（後継者支援等）

- ・小林市の主産業である一次産業（農畜産業）をどう支えるのか
 - 物価高騰対策
 - 「一産取肥育」や後継者不足への支援
 - 農業体験を多品目で展開し、県・JAと連携
 - 特産物・ブランド化の検討
- ・市内企業のマッチング支援
 - 行政×企業／異業種連携促進
- ・市のPR・情報発信力の強化
- ・ふるさと納税の使途を明確化
- ・人口減少が消費（牛乳販売等）に影響しているため、産業振興と人口流入策を両立させるべき
 - ・「おてつナビ」等を活用した事業承継・後継者不足対策の強化
 - ・国スポを機に外貨獲得・観光×地域特産品販売の強化
 - ・物価高騰対策全般
 - ・図書館を小林駅近くに移し、カフェ併設の憩いの場とする
 - ・市職員増員による雇用拡大と税収増の政策を検討
 - ・薬局経営から国の政策を感じる（国制度への懸念提起）

■観光・地域資源

- ・宿泊施設不足への対応（スポーツ合宿誘致含む）
- ・観光地の整備・保全（三之宮峡など）
- ・観光ルート連携の強化（観光農園×バス×旅行会社）
- ・国スポ・障スポに向けた誘客戦略強化
- ・新幹線誘致活動を強化
- ・北きりしま物産センター（小林IC）をより発展的に活用

■上下水道関連

- ・下水道の利便性向上と料金負担のバランスを改善

■行政運営

- ・担当者異動により事業が継続されない問題を改善すべき

■まちづくり

- ・須木・野尻地区などにも地域交流スペースを設置

市民厚生委員会

●病院関連

- ・子どもの医療費無償化（高校生まで0円・350円→複数意見）

- ・市立病院の対応改善を求める声

- 救急対応が冷たい、診てくれない

- 原則2次医療・紹介状必須の体制を市民が知らない

- 病院だから急患は診てくれるはずという市民との認識ギャップ

- ・産婦人科の復活・小児救急の充実

- 西諸地域に産婦人科がない

- 夜間・休日診療の不安（都城まで行くことが多い）

- ・子育てしやすい医療体制の要望

- 産後ケアの充実

- 出産直後、家族で滞在できる施設（上の子の通学、父の通勤が可能な場所）

- ・医療過疎への強い不安

- 「病院がない田舎には帰ってこなくていい」と言う親の辛さ

- 人口減少とともに民間病院も縮小

- 産科医療の喪失

- ・専門医療へのアクセスの負担

- アトピーで宮崎市内通院が大変

- ・病院赤字は国の問題、市だけでは解決困難という認識

- ・整形外科に高齢者が多いことへの驚き

●ごみ問題

- ・分別が細かく大変だが、慣れれば資源意識が根付く

- ・燃やせないゴミ回収回数を増やしてほしい（月1→月2~3回）

- ・リサイクル当番の時間を見直してほしい

- 出勤時間と重なる（早朝や日曜に変更希望）

- ・生ゴミ出しがつらい（備え付けノコクズがない、他人の生ゴミを見たくない）

●高齢者医療費問題

- ・高齢者の病院サロン化への懸念

- 健康インセンティブ制度（ポイントで旅行等）の導入提案
- 農業活動参加でコミュニティ形成を
- ・薬の過剰支給問題
 - ジェネリック以外の薬、湿布をもらいすぎ
- ・現役世代の負担増への不安
 - 非課税高齢者の医療費徴収を見直すべき

●その他 福祉分野

- ・子育て支援
 - 世帯年収ではなく子どもの数に応じた助成に
 - 物価高で賃金が上がらない中、支援拡充を
- ・高齢者の貯蓄を消費へ回す仕組みを
- ・補聴器購入助成を（高齢者・育児と介護両立世代にも役立つ）
- ・障がい者支援
 - 高校の進路指導が一般求人情報を把握していない
- ・国保負担
 - ひとり親世帯で軽減・免除制度がなく生活が非常に厳しい
- ・ひきこもり問題
 - 人材として活躍の場を創出すべき（人手不足解消にも）
- ・生活保護利用者
 - PTA や地域作業に参加し、社会復帰を目指すべきという意見
- ・児童クラブごとにルールが違い戸惑う
- ・高校生以上（学生）の医療費負担が重い

4. 意見交換会で得られた市民意見等の取扱いについて

意見交換会終了後、広報広聴委員会において参加者から出された意見・アイデアを所管する各常任委員会に振り分けを行いました。

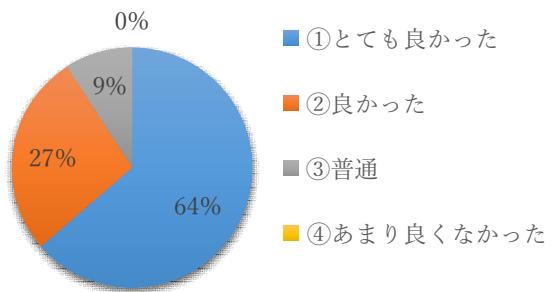
振り分けた意見については各常任委員会において協議したり、議員個人の一般質問等に活用していくことを確認しました。

各委員会で協議した内容については、その経過等を適宜、市民の皆様に報告していきます。

5. 参加者アンケート結果（参加者 25 名中、回答者 11 名）

（1）議場見学・体験についての感想を教えてください。

選択項目	回答数
①とても良かった	7
②良かった	3
③普通	1
④あまり良くなかった	0

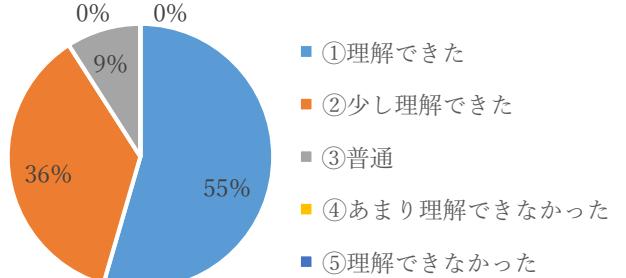


（2）その理由があれば自由にご記入ください。（自由記述）

- ・意見を述べやすかった。
- ・市民の闊達な意見と市議会議員の対応が良かった点。
- ・市議の方々と意見討論出来た点。
- ・より、議員さん方が近く感じられました。
- ・市議と話す機会はなかなかないので良い時間でした。
- ・議員さんの仕事を少しは知ることが出来た上、貴重な意見交換が出来た。
- ・色々な意見がでて良かった。話しが何処まで反映されるかな？
- ・入る機会がなかなか無い為。

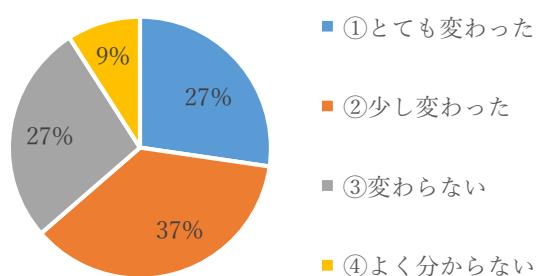
（3）市議会や議員の役割や活動について理解できましたか？

選択項目	回答数
①理解できた	6
②少し理解できた	4
③普通	1
④あまり理解できなかった	0
⑤理解できなかった	0



(4) 議会や議員に対する印象は変わりましたか？

選択項目	回答数
①とても変わった	3
②少し変わった	4
③変わらない	3
④よく分からない	1

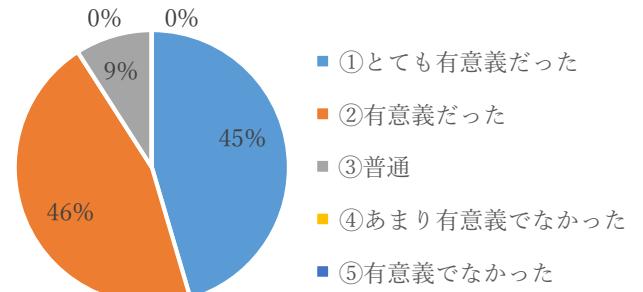


(5) どのように変わったか、自由にご記入ください。

- 皆さんの事を考え一生懸命取り組んでもらえてるのを感じました。
- 議員の皆さんいつもとても良くしてくださってると思います。
- 市政のためしっかり活動している。
- 変わらず、感謝の気持ちでいっぱいです。
- それぞれの担当の委員会の役割をしっかり遂行しているように思えた。
- そもそも議員さんの仕事について余り理解していなかった。

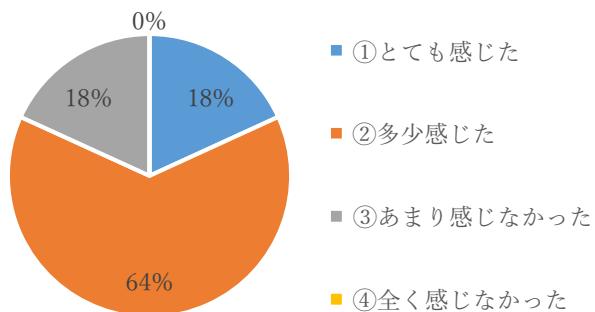
(6) 委員会別の意見交換会は有意義でしたか？

選択項目	回答数
①とても有意義だった	5
②有意義だった	5
③普通	1
④あまり有意義でなかった	0
⑤有意義でなかった	0



(7) ご自身の意見が市政に反映されそうと感じましたか？

選択項目	回答数
①とても感じた	2
②多少感じた	7
③あまり感じなかった	2
④全く感じなかった	0



(8) それぞれの委員会へのご意見等を自由にご記入下さい。

○総務文教委員会（教育・学校・スポーツなど）

- ・分野が多岐にわたるので細部への対応は難しいだろうと感じた。
- ・スポーツを通して市来訪者を増やす！
- ・校舎や体育館の建て替え計画があるのなら、いつになるのか知りたい。
- ・教育現場での現状を把握し、問題を解決し、先生方がのびのび指導出来るよう働きかけてほしい。
- ・児童・生徒減少に伴っての学校、クラブ活動の今後の在り方について、色々とお話を頂きました。これからも尽力して頂きたい。
- ・小中学校の統廃合がどのようになるか？心配もある。

○経済産業委員会（産業、商工観光、道路整備など）

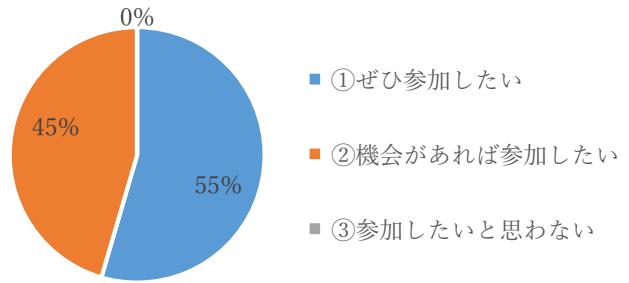
- ・市民のより良い所得増へのアイデアを議員の皆さんにはお願いしたい。
- ・企業誘致より市外からの市来訪者を増やす方が市は活気づき結果税収も上がる！
- ・永田町の市道(前原病院～吉都線ガード下～永田平公園下交差点、プラッセだいわ近辺)がだいぶ傷んでいるので、道路改修を市に働きかけて欲しい。周辺の工場などへ出入りする大型車の影響と思われます。
- ・通学路優先で、整備を進めて欲しい。
- ・人口を増やす方向より、観光等で来市的人数を増やす方法の模索。スポーツの街を活用して！
- ・担い手不足（後継者不足）や物価高騰に対する農家支援など、議員の皆さんのがどうにかしていきたいという思いを聞くことが出来ました。今後的小林市に期待出来るお話でした。
- ・小林インターチェンジ周辺が発展しないかな？

○市民厚生委員会（子育て支援、医療、福祉など）

- ・高校生まで医療費補助を！（市内在住学生限る）
- ・小児医療費補助を高校生卒業まで延長して欲しい。
- ・生活保護の設定を厳しく！高校生の医療費補助。
- ・小林市立病院について熱く意見交換しました。なかなか我々市民と市議さんとの認識の違いもあり、本当に有意義なお話をすることが出来ました。
- ・市立病院に特化した専門医が来てくれたら…

（9）今後もこのような市議会との意見交換会に参加したいと思いますか。

選択項目	回答数
①ぜひ参加したい	6
②機会があれば参加したい	5
③参加したいと思わない	0



（10）今回の企画についてご意見等あれば自由にご記入ください。

- ・内容は良かったのでせっかくなのでもう少し時間にゆとりあると良い。
- ・非常にいい試みだと思いますが、時間が短く中途半端な感じがした。
- ・時間が足りないと思えるほど、充実したものでした。お忙しい中、準備をして頂きありがとうございます。各委員会（3部門）が、何についての話をすれば良いか、具体例やカテゴリーをプリントしてもらえてれば、もっと意見が出しやすかったかもしれません。
- ・議員と意見交換ができ、とてもいい企画だと思いました。

各委員会が何を担当しているか知らなかつたので、事前に総務文教委員会は何を担当して、経済産業委員会は何を担当してなどの周知をしてて欲しかったです。

そして、3つある委員会の方々と20分ずつ意見交換をする時間を設けると分かっていたら、事前に質問事項をまとめることもできました。

さらに、何cm四方の付箋紙に質問を記入をさせることができたら、事前に記入できたので時間短縮につながったと思います。

- ・せっかくなのでもう少し時間に余裕があつてもよい。
- ・もっと沢山の市民の皆様に参加して頂き、より多くの意見が市政に反映出来るよう今後も続けて頂きたいと思います。
- ・とてもいい機会でした、ただ委員会意見交換の時間が短いと感じました。

(11) 最後に、市議会や市政に対して伝えたいことがあれば自由にご記入下さい。

・引き続き市民ファーストで小林市のために活動願います。人口減少、少子化は時代の流れなので無理して対策しても厳しい。人口が減っても生活出来る持続可能なまちづくりを目指した方が良いと思う。

・ありがとうございます！今後とも市政発展のためにご尽力いただきますようよろしくお願ひいたします。

・これだけ議員さんが一生懸命、私達のことを考えてくださってるのに・・・議員報酬が少な過ぎませんか？専業で議員の仕事ができるほどのお手当が必要だと思います。

・引き続き市民ファーストで宜しくお願ひいたします。

・少子化、人口流出による市民減少、児童、生徒減少での学校の在り方、物価高騰による消費者負担、本当に課題山積で市長を始め、市議の皆さんのご負担は大変なものだと思います。これからもご尽力頂き、より良い小林市にして頂きたいと思います。宜しくお願ひいたします。

こばカフェ 2025 実施報告書

令和8年1月

小林市議会広報広聴委員会

〒886-8501 小林市細野300番地

TEL 0984-23-2475

FAX 0984-23-0303

email k_gikai@city.kobayashi.lg.jp